

# 広域過疎地域における母子保健， 医療のシステムに関する研究 (第三報) その2

中 尾 亨  
山 内 豊 茂  
本 谷 尚 郎  
柏 谷 哲 郎

昭和49年以来の調査により、寿都、黒松内地区における母子保健の現状は次の如くである。

(I) 母子保健医療の健康指標よりみた広域過疎地域（寿都町黒松内町）と所管保健所（倶知安保健所）管内および北海道との比較（昭和50年度）

(1) 出生率

過疎の基本は、人口の減少によるものであり、従って出生率はそれを解決する鍵である。半農半魚の寿都町では、出生率は低下しているが、農業酪農を主とする黒松内町では、出生率は増加の傾向がみられる。

	寿都町	黒松内町	倶知安HC管内	全道
出生率	10.6	16.8	13.2	16.8

(2) 出生場所および出生時医師立合件数

最近両町における施設出産が増加し、89.5%であった。寿都町民は主として岩内町、小樽市、札幌市の施設を利用し、地元病院の利用は少なかった。黒松内町民は $\frac{2}{3}$ が倶知安町、長万部町、八雲町の施設を利用し、地元の母子健康センターでの出産は $\frac{1}{3}$ 程度であった。この傾向は、実家での出産を希望する住民が多いためであろう。また医師の立ち合い件数については、十分な調査ができなかった。

(3) 低体重児出生率

	寿都町	黒松内町	倶知安HC管内	全道
低体重児出生率	14.5	26.3	7.5	5.8

寿都町では、低体重児の出生率が全道及び倶知安HC管内の夫に比べて極めて高いことは、注目に値する。

(4) 乳児死亡率

	寿都町	黒松内町	倶知安HC管内	全道
死亡率	14.5	25.3	16.1	11.2

黒松内町での高い死亡率が目立つ。

(5) 新生児死亡率

(6) 周産期死亡率

(7) 死産率

	寿都町	黒松内町	倶知安HC管内	全道
新生児死亡率	14.5	25.3	10.9	7.6
周産期死亡率	43.5	38.0	22.8	15.6
死産率	126.6	122.2	90.1	75.0

両町における上記の死亡率、死産率等は、倶知安保健所管内および全道の夫に比較して極めて高い。

(8) 乳幼児の発育状況

現地健診の結果では、両町の乳幼児の発育状況は他地区と比べて特に差が認められなかった。

(II) 寿都町、黒松内町における母子保健（医療）の実態……とくに保健婦の活動を中心に。

(1) 寿都町のある場合

町主催の妊婦相談、育児相談（乳児健診）を毎月行なっている。担当の保健婦は、町役場国保係の2名である。町には、産婦人科医（内科医を

兼ねる) 1名が常勤しているが、他に専門医はいないため異常を発見した際には、小児科と耳鼻科は岩内町居住の専門医に、整形外科は倶知安町、岩内町の専門医に、また言語発達の異常は、倶知安町にある児童相談所に紹介して指示を仰いでいる。これらの紹介は、保健婦自身が行なっており、保健婦の判定が大きな影響を持っている。更に上記の医療機関等で解決できないものは、小樽市、札幌市の機関等に紹介して居り、地元医師との協力態勢が充分でない様に見受けられる。又専門医による乳児健診の早期実現を望んでいる。

## (2) 黒松内町の場合

町出催の妊婦相談育児相談を毎月2回母子健康センターで行なっており、保健所からの派遣保健婦1名と母子健康センター勤務の助産婦1~2名とで、身体計測を主として行なっているが、相談内容の質は低い。又町当局の母子保健に対する理解の不足が認められる。

異常を発見しの場合には、長万部町、倶知安町八雲町の専門医に紹介している。なお産婦人科は月に3~4回出張医により開設され、その際妊婦の異常が診断されている。又専門医による乳児健診、育児相談の開設が望まれている。

## Ⅲ 寿都町、黒松内住民の医療調査、とくに小児保健医療に関する母親の意識調査(面接応答形式による)

結果:

- (1) 広域過疎地域といわれる2町の住民の医療知識は都市部のそれとくらべて、全く差がなかった。医療に対する関心は、過疎地なる故か、むしろ都市部よりも高かった。
- (2) 過疎地医療の対策として、従来よりの或いは又現在も行なわれている単なるホームドクター(一般医)の配置のみでは満足していなかった。この点で自治体当局の考え方とはかなりの相異がみられたことは、注目すべきであろう。つまり医療の量的面的のみならず、質的にも高い医療を強く希望している。
- (3) 専門医師の配置派遣を希望している。特に小児科、耳鼻科、眼科医の要望が大きい。産科については、出産は地元とするよりむしろ実家所在地

又は都市部でしたいとの考えが一般的であった。

## (4) 両町の保健婦に対する住民の意識

保健婦についても、医師の場合と全く同様である。すなわち、新しい知識、情報の提供を待ち望んでいるのに、これに対応できない保健婦に対しては信頼感がなく、相談を受けようとせずまたその指導を無視する傾向がある。他方よく勉強し積極的に相談、指導してくれる行動的保健婦に対しては、地元の医師に対するよりむしろ信頼が大であった。Ⅱの(1)でふれた様に医師と保健婦との協力態勢がうまく行かない理由の一つでもある。

## (5) 時間外診療(救急、緊急の場合)

この対策として、寿都町では当番制をとっているが、医師の絶対数が不足のため、円滑に行っていない。

黒松内町では、町立国保病院で当直医が勤務して居り問題がない。また急病(発熱、嘔吐、下痢程度)の場合には、地元の診療所で対処して居り住民から感謝されている。

## Ⅳ 過疎地として問題になる交通網(道路)および冬季間の医療について

(1) 交通網(道路)は発達整備されて居り、住民はこの点で不安を持っていない。両町の中心部すなわちいわゆる「市街地」外の住民は殆んど自家用車を保有して居り、とくに黒松内町では各戸に1台以上保有して居り、自動車は生活必需品化している。これが専門医の診療を求めて、小樽、札幌などの遠隔地へ出掛けることになり、更には前述のⅢ(2)(3)の如く専門医の配置を強く望む結果となるのであろう。

## (2) 冬期間とくに多雪地帯の医療の実態

現在では国道はじめ道道など昼夜に亘って除雪作業が行われて居り、降雪による交通の杜絶は殆んどみられない。この点に関する住民の不安はない。すなわち冬期といえども、医療の実態には相異がないと云える。

## Ⅴ 広域過疎地域(寿都町、黒松内町)における母子医療システムをいかにすべきか。

前述のⅠ~Ⅳ項および現地での調査(巡回健診、医療意識調査および倶知安保健所の指導

実態など)の結果にもとづき、次の様な医療システム対策をたてたい。

過疎地域における医療システム対策は医療と保健を総合的に実施しなければならない。

(1) 寿都, 黒松内両町における母子の保健医療情報の一元的集中管理(データ・バンク)システム  
寿都町

町は保健婦, 母子保健推進員を中心に活動し, 町内にある道立寿都病院と開業医(診療所)および近接町村の医療機関に協力を求め, 各人の保健医療に関する情報をまとめ, これを所管保健所(倶知安HC)に送り, 保健所はこれを管理する。このためには, 母子保健推進員の増員とその活用, 医師と保健婦の協力態勢を一層強化することが必要である。

黒松内町

町は母子健康センターの職員(とくに助産婦, 保健婦)と保健所からの派遣保健婦更に母子保健推進員を中心に活動し, 町内にある町立国保病院と診療所および近接町村の医療機関に協力を求め, 各人の保健, 医療に関する情報をまとめ, これを所管の倶知安保健所に送り, 保健所はこれを管理する。このために必要な措置は寿都町の項で述べたと同様である。

これらの資料, 情報が地区内医療機関の医師に充分利用される様努力しなければならない。これには地元医療機関の絶大な好意と協力があってはじめて実現できるものであることを認識しなければならない。保健所には, 従来の業務以外に負担をかけることになるが, この際保健所のサービス業務を如何にすべきか検討せねばならない。

(2) 既施設の充実, ならびに施設の新設

寿都町に母子健康センターの設置をはかる。これは隣接村との協力でを行うことが望ましい。黒松内母子健康センターの充実をはかる。

地域中核病院として, 道立寿都病院, 黒松内町国保病院の内容充実をはかる(医師, パラメディカルの職員, 医療機器など)

(3) 母子保健, 医療従事者の質の向上

(4) 基幹病院としての北海道立小児総合保健センターの役割——基幹病院による寿都町, 黒松内町の母子保健医療サポートシステムとくに医療について

これは直接的診療サポートであり, 地元医療機関ならびに地域中核病院と小児保健センター間の密接な連けいの下に行なう。

- a) 電話による遠隔診療
- b) ECG電話移送システム
- c) 重症又は緊急患者の輸送
- d) 基幹病院からの医師の派遣など

## 結 語

北海道の広域過疎地域(寿都, 黒松内地区)における母子保健医療の現状, 保健婦活動, 住民の保健, 医療に関する意識調査の結果について述べた。この地区では自動車の保有率が高く, 患者の輸送について冬季間でも不安はない。

母子保健医療システムとして, 1) 管轄保健所による情報の集中管理(データ, バンク) 2) 医療施設の充実強化 3) 医療従事者の質の向上 4) 基幹病院からの診療サポート 5) 地元の医療機関を中心とする協力態勢の確立などを提案した。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

昭和 49 年以來の調査により、寿都、黒松内地区における母子保健の現状は次の如くである。

〔 〕母子保健医療の健康指標よりみた広域過疎地域(寿都町黒松内町)と所管保健所(倶知安保健所)管内および北海道との比較(昭和 50 年度)